48 埼玉県における診療放射線技師による読影の現状について

埼玉県診療放射線技師会 第六支部

○中山 勝雅¹⁾ 山口 明²⁾ 小島 仁史³⁾ 竹内 信行⁴⁾ 石川 直哉⁵⁾

1) AMG上尾中央総合病院 2) 埼玉県立小児医療センター 3) 西大宮病院
4) 社会保険大宮総合病院 5) 指扇病院

【目的】

平成 22 年 4 月 30 日、厚生労働省より「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」の通知が出された。診療放射線技師においては「画像診断における読影の補助を行うこと」および「放射線検査等に関する説明・相談を行うこと」が果たし得る役割として期待されている。そこで、埼玉県における診療放射線技師による読影状況の把握を目的に、アンケート調査を行ったので報告する。

【対象の方法】

埼玉県診療放射線技師会員が所属する病院など 287 施設を対象とし「診療放射線技師による読影状況」についてアンケート調査を行った。

回答のあった 95 施設 (33%) について結果を集計した。

- I. 施設規模 (病床数) について
- II. 診療放射線技師の人数について
- III. 放射線科医の人数について
- IV. 診療放射線技師による読影の必要性について

- ・診療放射線技師による読影の必要性について
- ・病変の見落としの減少
- ・読影しないと撮影もおそろかになる
- ・必要だがトレーニングが必須
- どちらとも言えない
- ・医療体系の中での位置付けに疑問
- ・点数が付くなら行う
- ・見落としなどの責任が重い
- ・個々の読影能力の差がありすぎる
- ・モダリティーによっては必要
- ・施設により状況が異なるため

V. 診療放射線技師による読影の状況について
行っている

- ・消化管と US は技師施行のため
- ・口頭で助言程度
- ・医師からの要望のため
- ・分かる範囲で行っている
- ・胃検診の読影補助
- 行っていない

- ・相談にのる程度の事はやる
- ・要望があった場合、補助としては行っている
- ・読影に対する医師および技師間の意見の統一が困難である
- ・技師の経験年数が浅いため

VI. 医師とのカンファレンスについて
行っていない

- ・人員不足、業務で席が外せない
- VII. 診療放射線技師による読影に対する意見
- ・読影することで撮影した画像の再確認、読影しやすい画像の提供、知識の向上になる。技師の地位を確立するためにも大切である
- ・経験による読影でなく、講習会や勉強会の強化が必要読影補助に関して立ち位置や責任所在をはっきりさせる必要がある
- ・時間外は医師も少ないため技師による読影補助は大切
- ・読影により追加の撮影を提案することも必要
- ・検査したものだから分かる部分を指摘できると良い

【まとめ】

- ・今後、読影補助を行うためには、養成校での教育、卒業教育が重要
- ・カンファレンスへの積極的参加が必要
- ・補助読影を行う事で、医師の負担軽減になる可能性はあるが、技師の負担が増加
- ・読影を念頭に置いた撮影や、検査を行う事でスキルの向上が期待できる
- ・診療報酬点数の付加が期待できるのかが課題
- ・補助読影の明確な定義を決める必要がある